

一 駅前広場整備の方向性について一

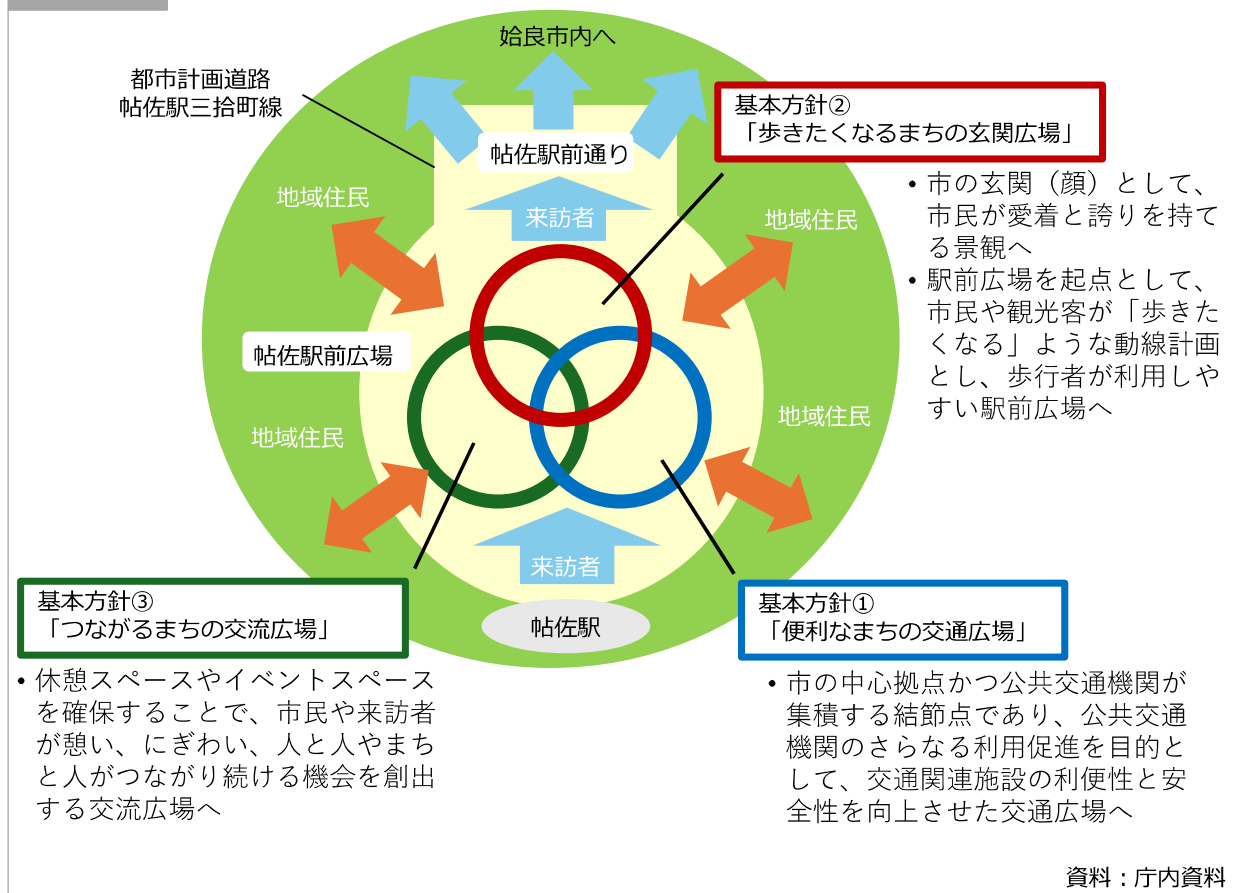
- 駅前広場は、鉄道利用者のバス乗り換えやタクシー乗り換え等、交通結節点としての機能（交通空間）をもつ一方、買い物客や待ち合わせ等の人々の交流や都市の景観の形成等、都市の広場としての機能（環境空間）を担っています。
- 駅前広場についても、「交通空間」として「交通の結節機能」の改善に加え、「環境空間」として、新たな「都市の広場機能」が強く求められていることが、ワークショップでも明らかになりました。
- 本市の顔として、都市の広場機能を有する駅前広場を整備し、本地区、本市のまちづくりを促進していくことが期待されており、以下を基本方針として駅前広場整備の検討が進められています。

図表3-10 駅前広場の機能

空間	機能	特性	
交通空間	交通結節機能	各種交通を結節・収容する	
環境空間	都市の広場機能	市街地拠点機能	都市（地区）の拠点を形成する
		交流機能	憩い・集い・語らいの中心となる
		景観機能	都市の顔としての景観を形成する
		サービス機能	公共サービスや各種情報を提供する
	防災機能	防災活動の拠点となる（避難・緊急活動）	

資料：駅前広場計画指針—新しい駅前広場計画の考え方—（公益社団法人日本交通計画協会）

図表3-11 駅前広場の整備方針



図表3-12 駅前広場の基本計画図とデザインイメージ

デザインテーマ：

「柔らかない、明るいデザイン」を基本として、「落ち着いた、和風デザイン」を部分的に取り入れる

屋根付き駐輪施設

- 露出した駐輪が周囲の景観を損ねることがないように配慮する。

歩道舗装

- 舗装材は、「柔らかない、明るいデザイン」として、明るい色調の舗装材を基本とする。
- また、「落ち着いた、和風のデザイン」をアクセントに取り入れ、鹿児島県の「火山灰土を利用した舗装」等、文化性を取り入れる。

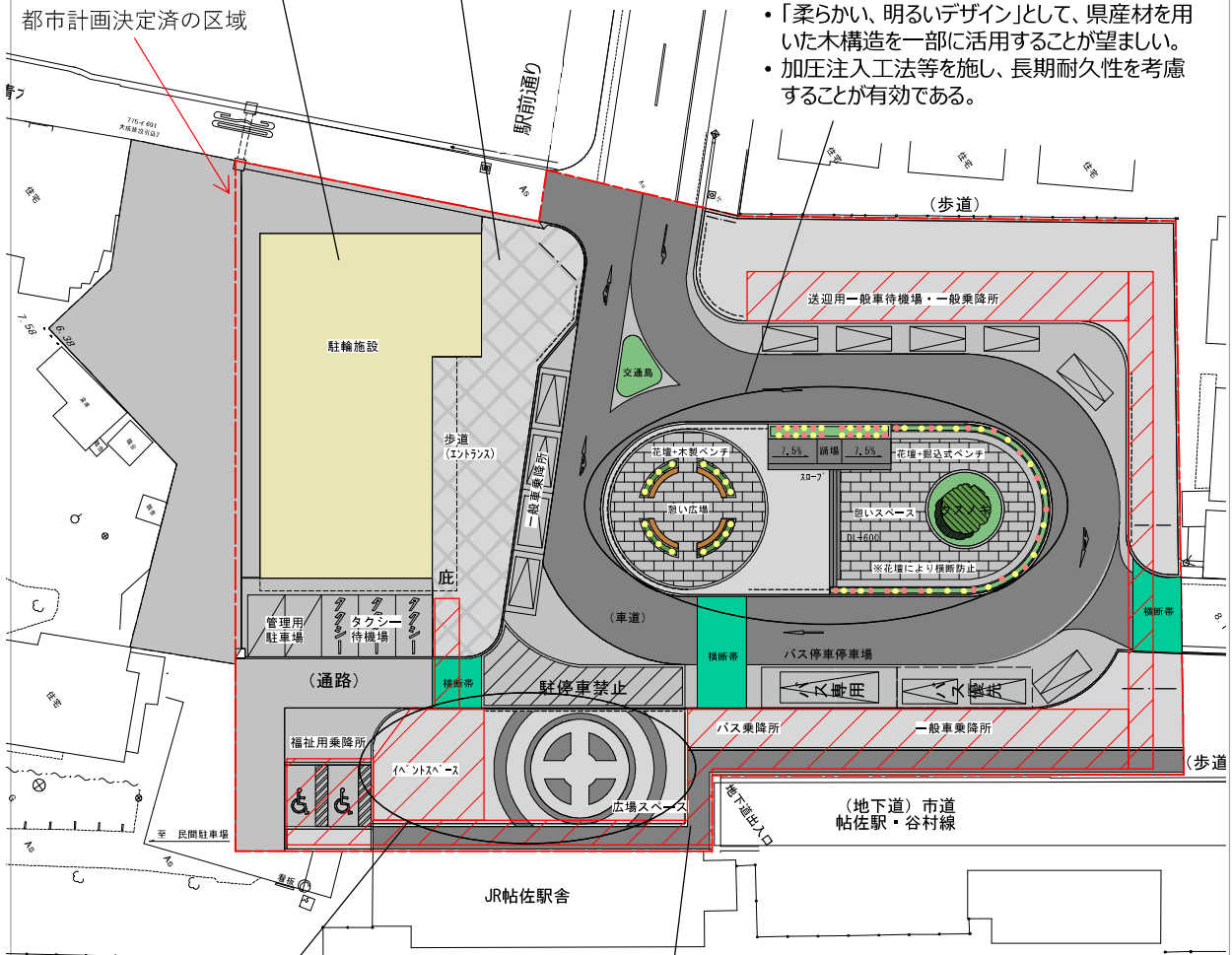
ロータリー内部

- ベンチや、花壇を設置し、周辺の居住者や駅利用者の休憩機能を設ける。
- ロータリー内部には、本市のシンボルツリーであるクスノキの植樹を検討する。
- 設置する花壇は、市民が植栽、育成する等交流イベントに活用する。

ベンチ等

- 「柔らかない、明るいデザイン」として、県産材を用いた木構造を一部に活用することが望ましい。
- 加圧注入工法等を施し、長期耐久性を考慮することが有効である。

4. エリアごとの将来像や期待される機能



駅前の広場スペース

- 駅舎と駅前通りの相互に視認性を確保し、明るく開放的な空間とする。
- 駅を利用する人々が、スムーズに乗り換えできる交通結節点機能を確保する。
- 駅前にスペースを確保し、イベント等で活用できる広場機能を確保する。

シェルター (赤い斜線部分)

- 「柔らかない、明るいデザイン」として、鉄骨構造の膜屋根を基本とする。
- 「落ち着いた、和風のデザイン」をアクセントに取り入れ、梁部分に木彫のルーバーや、柱の基礎部分に装飾として溶岩石をイメージした石張りの装飾を施す等、独自の文化性をデザインに取り入れる



資料：庁内資料

参考事例 | 大分県宇佐市

地域の人たちが積極的に利用したくなる拠点づくり

JR日豊本線柳ヶ浦駅の駅舎改修では、まずは利用実態に即した待合室の強化が必要でした。高校生やビジネスマンが利用しやすいように、机やいすを製作し、コンセント端末や無料Wi-Fi接続が可能な待合室へと改修しました。また、宇佐の観光案内や地域物産販売を兼ねた総合案内スペースを新たに設け、鉄道利用だけではなく、地域の人たちが積極的に駅舎を利用したくなるスペースを創出しました。机やいすは、地元の高中生や有志の方々と共にワークショップによる製作を行いました。観光案内スペースでは宇佐市が定期的に企画展示を開催し、積極的ににぎわいづくりを図っています。



写真・資料：株式会社 WAO渡邊篤志建築設計事務所HPをもとに作成

参考事例 | 佐賀県鹿島市

地域の拠点となる駅前広場等の整備

肥前浜駅は、佐賀県鹿島市にあるJR長崎本線・肥前浜駅交流拠点施設として駅舎の復元・増築及び駅前広場整備を行いました。近隣には重要伝統的建造物群保存地区「肥前浜宿」があることから、観光案内機能を強化するための活動スペースやオフィス、地域住民が立ち寄りやすいギャラリーを設け、広場を挟んでショップとカフェ・トイレを増築しました。

整備後は、肥前浜宿のまちづくりに尽力してきたNPO肥前浜宿水とまちなみの会の活動拠点が移され、様々なイベントが実施されているほか、令和3年には日本酒BAR「HAMA BAR」がオープンしてにぎわいづくりに貢献しています。



資料：Takebayashi Landscape ArchitectsHPより

メインストリートとしての景観形成

- 歩道の拡幅とあわせて、無電柱化や歩道の舗装材の高質化、エリア内で統一されたストリートファニチャーの設置、夜間照明のデザイン等により、本市のメインストリートとしての景観形成と快適な歩行空間（通行機能）の確保に取り組みます。
- 歩道は、目的地に向かって歩くための通行空間と休憩等の滞留空間を分節する等、活動に応じた空間を創出します。
- 滞留空間については、花やみどりによる季節感や木陰の演出、クールスポットの設置等、沿道の所有者と連携し、滞在の快適性を向上させるように努めます。

戦略 5 子どもも楽しめる居場所づくり

- 活用のイメージ
 - 子どもの創造性・感性を育む
コミュニティ空間
 - 子どもが地域の人たちと交流できる
イベント

戦略 7 歩くための空間づくり

- 快適な歩行空間の創出（歩道の高質化や段差の解消等のハード整備）
- 滞留空間を活かした仮設店舗の設置
- 歩道を活用した休憩施設や植栽スペースの設置

図表3-13 駅前通りのイメージ～柔らかない、明るいデザインを基本とし、駅前広場と連続するデザイン～

歩道舗装

- 駅前広場との統一感を演出できる素材とする。
- 「落ち着いた、和風のデザイン」をアクセントに取り入れ、鹿児島県の「火山灰土を利用した舗装」等、独自の文化性を取り入れ、点字ブロックが見えやすいよう色彩に配慮する。

歩道照明

- 無電柱化による開放的な歩道空間を尊重した主張の少ないデザインを基本とする。
- 本市の歴史をモチーフにした間接照明を活用し、観光性や文化に寄与することも望ましい。

シェルター（バス停・クールスポット）

- 歩行者の休憩所として、バス停やクールスポットを兼ねた屋根付き休憩スペースを設けることが望ましい。
- 駅前広場のシェルターとデザイン性を統一する。

ベンチ等

- 県産材を用いた木構造を一部に活用することが望ましい。
- 歩きたくるように、にぎわいを創出する空間や、バス停の兼用を計画する。

防護柵

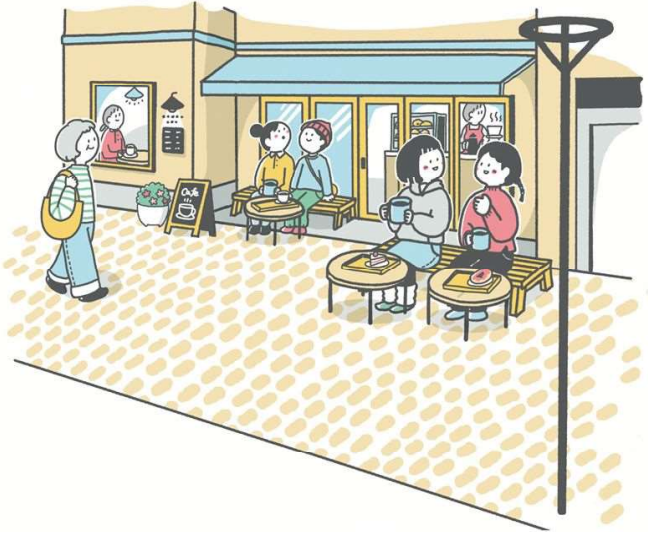
- 設置が必要な区間を検討して配置を計画する。
- 安全性に加えて歩道空間の見通しの確保と、開放性を重要視して、部材厚が少なく景観性に配慮したものを基本とする。
- 車両用防護柵にてベンチ機能を兼ね備えたもの等を部分的に採用しメリハリをつける。



B1.駅前通り（旧国道10号～国道10号の区間）

東西南北のまちなか拠点を結ぶ結節点エリア

- A～Dの各拠点をつなぐ結節点に立地するエリアです。
- 空き店舗もみられるほか、住宅も増えつつあるため、地域との連携により、空き店舗等を活用した店舗誘導を行い、飲食店等の商業施設やコワーキングスペース（働く場）等の機能を強化します。
- 空き地（低未利用地）を活用した滞留空間や休憩施設を設置します。



戦略 2 空き家や空き地、空き店舗の活用

- 活用のイメージ
 - 一時的な出店等、チャレンジする場としての活用
 - イベントの開催
 - コミュニティ空間の創出

B2.駅前通り（国道10号以北の区間）

大規模商業施設周辺エリア

- 大規模商業施設への来訪者をまちなかへ誘導する仕掛けを創出します。
- まちなかを散策するウォーキングルートの設定等、歩いて楽しい機能を充実させ、まちなかの回遊性を高めます。



戦略 8 案内機能の充実・適切な情報発信

- まちなか散策をサポートする誘導サインや看板の設置検討

街路空間を活用した滞留性・快適性向上の先導エリア

- 公園を利用する子育て世代や来訪者（飲食店の利用者）の利用が想定されます。
- あいらスクエア（始良市役所本館1階）のような、中の活動が見えるデザイン（開放性が高い外観の店舗等）による活動の見える化や、沿道店舗のあふれだしにより、通りのにぎわい創出を目指します。
- 公共空間や駐車場等の低未利用地を活用し、車を止めて歩きたくなるスポットを創出するとともに、回遊の拠点となる駐車場を確保します。
- 道路空間の工夫により、誰もが安全に安心して歩ける環境を確保します。



III

4. エリアごとの将来像や期待される機能

戦略 1 公共空間の活用

- 街路空間や市役所駐車場の活用イメージ
 - 駐車場を起点とした回遊性の向上
- 宮島西公園の活用イメージ
 - イベントの開催
 - 災害時の緊急避難場所としての機能向上

戦略 7 歩くための空間づくり

- 開放性が高い外観の店舗づくりや休憩施設の設置
- 通りへのにぎわいのあふれだし

本市の取り組み | 災害時も安心して活動できる基盤づくり

災害時の拠点となる公園の整備

公園は、レクリエーション活動の拠点として、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が利用します。また、健康運動や文化活動の場としても機能し、住民同士のコミュニケーションの場になっているほか、みどりによるうるおいをもたらします。

加えて、災害時の避難場所や復旧・復興の拠点としても重要です。災害時に備えて、災害時応急給水槽や防災倉庫等を設置している公園もあり、宮島東公園・宮島西公園においても、かまどベンチの設置が検討されています。



かまどベンチのイメージ

暮らし快適・健康増進エリア

- 周辺の居住者の利用が想定されるため、高齢者や子育て世代を対象として、生活の質向上に資する取り組みを行います。
- まちなかにおけるイベントの開催やイベント開催時の駐車場としての活用も想定されるため、駅前通りからの分かりやすい案内表示の設置を検討します。



戦略 1 公共空間の活用

- 宮島東公園の活用イメージ
 - 散歩やウォーキングの拠点としての公園整備
 - 災害時の避難場所としての機能向上
- 公民館の活用イメージ
 - イベント開催やイベント時の駐車場としての活用
 - 生涯学習による生きがいの創出

戦略 5 子どもも楽しめる居場所づくり

- 公園機能の充実（子どもの遊び場の設置や、雨天時も利用可能な屋根の設置）
- 公民館における学習スペースの充実や学生同士の交流機会の創出

参考事例 | 子どもも楽しめる居場所づくり

子どもや親子で楽しめるイベント

最も手軽にできる居場所づくりとしては、親子でまちに出かける機会＝イベントが考えられます。

ものづくりイベントや野外イベント等テーマは様々考えられるため主催者の創意工夫により魅力が高まっていくことが期待できます。



子ども向けイベント



公園の野外イベント